

特別講義 B

(2年～ 前期 2単位) 鹿嶋 敬・広井多鶴子

授業のテーマ・目標

少子化問題と絡んで、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）社会をいかに形成するかが、日本の大きな課題になっている。本講座では企業のトップやワーク・ライフ・バランスの担当者のほか、官界の政策担当者や大学・シンクタンクの研究者らに交替わりで教壇に立ってもらい、最先端の情報を講義してもらう。学生のうちからこの問題への理解を深めることは、これからの生き方を展望する上で大きな意義がある。

授業の内容

毎週、異なる顔ぶれの内部・外部講師に講義してもらう内容は、

- ①なぜ今、ワーク・ライフ・バランス社会の形成が急がれるのか
- ②企業はワーク・ライフ・バランスの取れた職場風土の形成をどのように行っているのか
- ③どんな成果が表れているのか
- ④社内風土はどう変わったか、特に男性の働き方は変わったか
- ⑤ワーク・ライフ・バランスと生産性の向上は両立が可能なのか
- ⑥中小企業の関心はどんな点にあるのか
- ⑦ダイバーシティ（多様な生き方）の取り組みと、どう関連するのか
- ⑧女性の処遇向上を図るポジティブ・アクションはどう行っているのか
- ⑨ポジティブ・アクションは男性の理解を得られているか
- ⑩育児休業等の取得と勤務評価の関連はどうなっているか
- ⑪格差社会とワーク・ライフ・バランスをどのように関連づけるのか
- ⑫この問題は、女性だけではなく男性にとっても重要だという認識は浸透しているのか
- ⑬男女共同参画の視点が入っている取り組みになっているか
- ⑭政府がこの問題に力を入れても、状況は変わらないのではな
いか
- ⑮海外ではワーク・ライフ・バランスをどのように推進している
か

などである。

外部講師に1時間くらい講義してもらい、残り30分は講師との質疑応答にあてる。

準備学習

毎回、外部講師が多くの資料を用意するので、授業でそれが理解できたかどうか確認し、復習をしっかりと行って次回の授業に備えること。

テキスト・教材

毎回、プリントを配布する。

成績評価の方法・基準

積極的な質問の有無（20%）、毎回提出してもらう授業の意見・感想を書いたリアクションペーパーの内容（40%）、授業態度（40%）で判定する。

参考書

樋口美雄ほか編『論争 日本のワーク・ライフ・バランス』（日本経済新聞出版社）

その他、外部講師から適宜紹介してもらう。

注意事項

このテーマは企業の関心事なので、就職の面接などでも話題になることがある。そうしたことも頭に入れ、緊張感を持って授業に臨んでほしい。